

---

# 安心緊急避難サービスZ・?

莓大福

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

安心緊急避難サービズ？

### 【Nコード】

N2461K

### 【作者名】

蓐大福

### 【あらすじ】

安心緊急避難サービズ。

続・安心緊急避難サービズZをお読み  
いただいてからご覧ください。

保険会社の社員が最大の危機を迎えます。

あとご感想いただき方がとうございました。  
今後もよろしくお願い致します。

## （前書き）

シリーズ化決定！微妙に反響があるので  
頑張っ て書いていきます。ご感想お待ちします。

## 安心緊急避難サービス？

注意：前作2話を読んでいた方のみお読みください。一部話を通じない個所があります。よろしくお願い致します。

### ここより本編

都内某所の古アパート2階に住む中年の男の家に保険会社の社員を名乗る男が訪ねて来た。

「こんにちは！〇〇保険会社の者です！」  
応答がない・・・

「こんにちは！誰かいませんか？」

すると中から怖そうな中年の男が突然出てきた。

「なんじゃいぼけえええ！うるさいんじゃああ！」

保険会社の社員を名乗る男は一瞬ひるんだがそこはプロ、すかさずドアに足を挟み閉められないようにした。得意技である。すかさずセールトークが始まると思った次の瞬間！中年の男は挟んだ足もおかまいなくドアを思いっきり閉めた！

「あいたたたたたた！」

それでも保険会社の男は執念で話しかける。

「と、当社においてま、まったく新しい画期的な保険商品があるんですが是非お話だけでも。5分位でけっこうなんですが」

足の痛みをこらえて言った。

中年の男は少し根負けしたような表情で言う。

「おまえ根性あるな！ここまで粘るセールスマンは初めてだ。気にいった！まあここじゃなんだから部屋に入れよ！」

保険会社の男はにやりと微笑んだ。

「貴重なお時間ありがとうございます」

部屋に入ったとたんなんか嫌な匂いが鼻に突く。台所にはたまった汚れたままの食器。ゴミだらけの部屋。かなりひどい部屋だ。

（早く売りつけてここを出よう。なんか怖そうな人だしいつもと今日は違う）

プロの勘が危険信号を出していた。

中年の男は座り込むと保険会社の男に座れと声をかけた。保険会社の男は恐縮しながら座った。

（今日は前回若い女性に売った緊急避難サービスを紹介しよう。あれが一番強力だから）

保険会社の男はそう思いしゃべり始めた

「今日お客様に紹介したいのは我が社が自信を持つておすすめする。安心緊急避難サービスです。この商品の主な特徴ですが通常保険というのは事故災害病気、または死亡といった事柄に対して後日金銭をお支払いして保障するものですが、この商品は事前に危機的な状況を回避する為に作られたものです。これが貴方を救ってくれます。」

そう言つて保険会社の男は鞆から野球ボール程の大きさの鉄球を取り出して中年の男に見せた。

「この鉄球に付いているボタン押すだけで危険な状況から避難させてくれます。ちなみに防犯ブザーとはまったく違います。すごいパワーですよ」

すると中年の男は興味津津といった感じで鉄球を見つめた。そして言つた。

「おい！それ貸してみろ！ちよつと押させてくれよ！」

保険会社の男は慌てて言つた。

「これは一度しか使えないんです！今は使えませんよ！お買い上げになってから危機的な状況でご使用ください」

中年の男はまったく聞き入れようとせず力づくで保険会社の男から鉄球を取り上げようした！保険会社の男はすべての力を出して鉄球を抱き抱えて守る！

（まずい！非常にまずい今までにないパターンだ！  
とんでもない事になった。俺が危機的状況になってし  
った！！）

保険会社の男は中年の男と揉み合いになった、と  
その時だった。思わず保険会社の男はボタンをすでに  
押していた！保険会社の男は叫ぶ！

「あ！いけね！！」

ずどんんんんんんんんん

もの凄い地響きと共に一瞬で二人の男は宙に舞い天井を  
貫き頭は屋根から突き出していた。頭蓋骨陥没の重傷だ  
った。

保険会社の社員を名乗る男は言わずと知れた詐欺師。  
もう一人の男はヤクザだった。

自ら緊急避難という自爆スイッチに手を触れてしまった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2461k/>

---

安心緊急避難サービスZ・?

2011年1月28日06時38分発行